

会 議 録

会 議 名	東松山市観光振興基本計画策定委員会					
開 催 日 時	令和7年7月11日（金）			開 会	15時00分	
				閉 会	16時30分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階302会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る調査結果について （2）第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る施策及びKPIの検討について （3）その他 4 閉 会					
公開・非公開の別	公開		傍 聴 者 数	0人		
非公開の理由 （非公開の場合）						
委員出欠状況	委員長	羽生 冬佳	出席	委 員	古川 由夏	出席
	副委員長	野瀬 元子	出席	委 員	村田 秀樹	出席
	委 員	新井 勝己	出席	委 員	横田 和則	出席
	委 員	荻原 直樹	欠席	委 員	島野 僚子	出席
	委 員	知久 孝幸	欠席			
事 務 局	環境産業部長 江口 功一			商工観光課副課長 菊池 隼		
	環境産業部次長 加藤 充			商工観光課主査 西木戸 利枝		
	商工観光課長 大久保 泰宏			商工観光課主事補 新井 雅士		
オブザーバー （委託業務受注者）	株式会社プランニングネットワーク 内藤					

次 第	顛 末
1 開 会	(事務局開会宣言)
2 あいさつ	<p>(羽生委員長あいさつ)</p> <p>(東松山市観光振興基本計画策定委員会条例第6条第1項の規定により、羽生委員長が議事進行)</p> <p>(村田委員と横田委員を署名委員に指名)</p>
<p>3 議 題</p> <p>(1) 第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る調査結果について</p> <p>羽生委員長</p> <p>(2) 第三次東松山市観光振興基本計画策定に係る施策及びKPIの検討について</p> <p>事務局</p>	<p>≪資料3【来訪者アンケート調査】「東松山市の観光・レジャーに関するアンケート調査」に基づき事務局が説明≫</p> <p><質疑応答・意見・感想></p> <p>資料P.15～16の内容のウォーキングイベントのバイアスについては、サンプルに偏りがあると結果に表れてしまうため、丁寧に見た上で東松山市を来訪する方の一般的な傾向と言っていいものかを慎重に考慮し、最終結果にまとめていただきたい。</p> <p>立ち寄りスポット数や、同時に訪れられている観光スポットのデータについては後に参考となるため、分析を進めていただきたい。</p> <p>≪資料4「第三次計画の全体像」に基づき事務局が説明≫</p> <p>目標と基本方針について、皆様から特に御意見をいただきたい。</p>

	< 質疑応答・意見・感想 >
羽生委員長	資料P. 6 東松山市の目標（案）について、他候補の内容について説明していただきたい。
事務局	①については、東松山市の観光の特徴を踏まえた上で、四季に合わせて花を見に来ることなど、現状に即した目標案である。 ②については、「歩く」はスリーデーマーチ、「味わう」はやきとりなど東松山市の魅力を市民が誇りをもって「語りたくなる」ようなまちであれば良いという思いを込めた目標案である。
野瀬副委員長	目標案の一つ目の副題にある「観光まちづくり」の文言について、来訪を促す目標がある反面、地域を作っていくという面も見えるため、計画が目指すものは何かが言葉に表れていると感じた。
古川委員	この目標は誰向けにどこを中心に設定するものなのか。
羽生委員長	それぞれのフレーズによって対象が異なると考えられる。 あくまで目標である中で、実現したい将来像が端的に示されているものがふさわしいのではないかと思われる。
島野委員	市民として、市外から来てもらえることは嬉しいが、設定する目標が市民を置き去りにするものでは意味がない。一方で、現実的には市外から花などを見に来る人が多い中で、どのように目標を設定すればよいのかが難しいと感じる。
横田委員	計画の目標という観点から、対外的な内容だけでなく市民向けの内容も入れるべきだと思われるため、両方の視点を取り入れた目標が良いのではないか。
村田委員	「参画」という言葉について、市民がどのように関わるかが具体的にイメージしにくいと感じる。

羽生委員長	<p>「楽しんで」がどこに係るのかが分からない。また、「参画」についても、市民の観光誘致等の活動を引き起こすことが目的なのか、あるいは市民が観光を楽しむという意味で参加することが目的なのかが曖昧であるためにイメージしにくいのではないか。</p> <p>「観光まちづくり」や「参画」という言葉が意味するものを明確にした上で、市民が腑に落ちる内容とする必要がある。</p>
新井委員	<p>第一次、第二次を踏まえて第三次計画では何を指すのかを明確にする必要がある。市民が楽しむのも一つだが、経済的に見れば市外から来てもらい、消費行動をしてもらうことが重要。限られた資源の中で何をどのように活用していくのかを明確にした上で、第三次の計画が目指す具体的な目標があっても良いのではないか。</p>
羽生委員長	<p>第一次、第二次を踏まえ、第三次の5年間の計画期間で何を指すのかは明確にするべきである。普段観光に携わる業務を行う中で、新井委員が今現在、必要と思われるものは何かあるか。</p>
新井委員	<p>広域の連携が効果的であると感じる。東松山市の観光スポットとしてこども動物自然公園があり、人気の場所ではあるが、その一つだけでは強みがなく市内の周遊につながらない。比企全体などを含めてコースを設定した上で、東松山市でも消費を促すような取り組みを考えると良いと思う。</p> <p>観光を考える中で、市民が自分のまちを誇れるようなものでないといけないと思われる。市民啓発を行うことで、そこから派生して市外に東松山市の魅力が広まるのではないか。</p>
古川委員	<p>観光の目標として、市外から来てもらい、お金を落としてもらうことが目指すべきものと考え。市外の人から見て魅力的に感じるまちを作ると、住民がそこにプライドをもっていくのではないか。</p> <p>目標を市民向けのものと、来訪者向けのものとで区分けするのはどうか。</p>

羽生委員長	<p>外から人が来るためのものが、市民にとって必ずしも良い物であるとは限らない。観光に特化したまちづくりではなく、市民と観光客の両方が満足できるまちづくりをしなければならない。基本的にはどちらかを優先するのではなく両方の立場を考えた上で、細かい部分について優先すべき事項を考えることが重要である。</p> <p>また、長期的に見る部分と短期的にターゲットを絞る部分など、誰に対してどのような施策を取り組んでいくのかを織り交ぜていくことが、計画を考える中では必要である。</p>
羽生委員長	この場で目標を決定するのか。
事務局	いただいた意見を基に再考する。
羽生委員長	<p>目標については、三次計画として何を目指すのか、計画内で何を実現するのかを明確にする必要があると思われる。</p> <p>資料P.1の「第2章 基本方針」内「3 評価指標」(KPI)についてだが、「①観光入込客数の増加」については再考していただきたい。入込客数の増加を目指すのではなく、消費や滞在時間、滞在場所や来訪者の満足度を伸ばすことなど、今回の目標に即した内容を指標にしても良いのではないか。データの取り方の問題もあるが。</p>
島野委員	ひがしまつやまプライドについては、数を増やすなどの目標を立てるべきか。また、プライド事業者同士の横のつながりがないと感じられる中で、イベント出店などを事業者で協力して行うなど、プライドの認知度向上につなげる何かが計画の中にあると良いと思う。
事務局	数をただ増やすというよりは、今の認定品を多くの方に知ってもらうこと、認知度の向上を目指すことが重要であると考えている。プライドを指標とするのであれば、認知度の向上について計るものとしたい。

村田委員	具体的な指標として、くらかけ清流の郷など一施設に特化したものでも良いのか。
新井委員	市の観光施設の目標としては良いかもしれないが、観光全体の計画としては違うものが良いと思われる。
野瀬委員	市民が東松山市の観光資源について認知し、それらについてプライドをもって紹介できれば市民参画にもつながると感じる中で、目標や指標に落とし込めるものがあれば良いと感じた。
羽生委員長	指標を作る中で、認知度がキーワードになると感じている。
(3) その他 事務局	資料4のP.12～P.13についても説明し意見を求めたいが良いか。
羽生委員長	よろしいか。 《全員同意》
事務局	《資料4「第三次計画の全体像」内「第3章 施策体系と取組内容」について、資料P.12～13に基づき事務局が説明》
羽生委員長	ここまでの議論の中ですでに出ている意見もあるため、それらについては、そこを踏まえて再度検討していただければと思う。 その他の点で、意見をいただきたい。
横田委員	アンケート結果から東松山市への来訪手段は車が多いとされている中で、車で来ることを踏まえた施策が必要かと思われる。特に周遊を促す仕組みを作るうえで、駐車場の整備等の自家用車で来る人のことを考えた仕組みが重要になる。

新井委員	呼び込める話題や新たな魅力の創出が必要であると感じる。
羽生委員長	<p>基本施策2の中の「磨き上げ」に内容が含まれるかと思われるが、新たな魅力の創出という観点で文言を追加しても良いのではないか。また、事業者を含め観光に関わる環境づくりをどのように行うかについても、明記すると良いと思われる。</p> <p>基本施策3に「～埼玉県こども動物自然公園をフックとした周遊促進等」とあるが、動物園に限定してよいものなのか。</p>
事務局	各施策の「～」以降の文章については再検討する。
羽生委員長	<p>基本施策4の「まちなかづくり」については、観光の計画として他部署との協力体制や、他部署にどう働きかけるかを検討いただきたい。</p> <p>基本施策3の周遊を促す施策について、サイクルツーリズムは誰でも行えるものではなく、これで周遊を促すというのは十分ではない。また、スタンプラリーについても現状の交通網では施策として盛り込みづらい。地元住民に対する交通の利便性の向上を含め、周遊しやすい仕組みの構築について観光の立場から新たなモビリティの提案を検討することも必要である。</p>
野瀬副委員長	P.22～23の基本施策5・6について「市民も」より「市民が」のほうがより主体性を感じられるため良いのではないか。
羽生委員長	基本施策の5・6は非常に重要となる中で、できることしか書けないかもしれないが、様々な可能性を探っていただければと思う。
事務局	次回の会議は10月頃を予定している。会議の日には改めて連絡する。

4 閉 会

(野瀬副委員長あいさつ)

(事務局閉会宣言)

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和7年 月 日 署名委員 村田 秀樹

署名委員 横田 和則